



『集団資源回収』を知っていますか？

紫波町では、新聞紙・ダンボール・空缶・空びんなどを資源ごみとして分別収集することで、焼却処理量の削減及びリサイクルの促進を図っておりますが、これとは別に地域が自主的に取り組むリサイクル活動の支援を行っております。

子ども会、老人クラブ、行政区などの団体が、資源リサイクル運動実施団体として町に登録し集団資源回収を行うことによって、資源回収業者からの販売料のほか、回収実績に応じた町からの補助金の交付を受けることができます。集団資源回収は、その収入を団体の活動資金とすることができますし、地域の実情に合わせた活動が可能なことや一人ひとりのリサイクル意識向上、地域でのコミュニケーションを深める場としても効果があります。

このほか、平成20年度の資源回収量（938,421kg）を町が負担しているごみ処理経費で換算すると約2,078万円となり、資源回収に対する補助金額約456万円と比較して1,622万円相当の経費の節減効果とごみの減量

化が図られたこととなります。

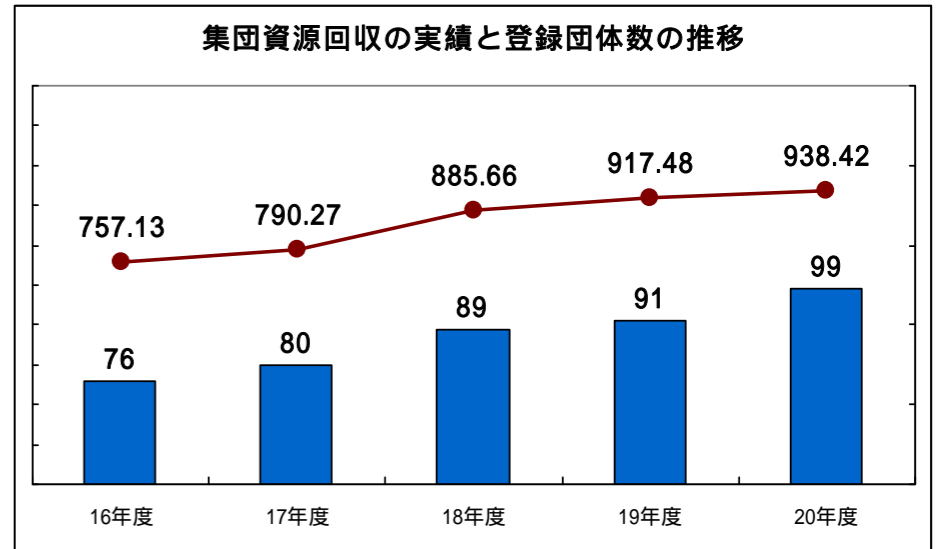
また、家庭内では資源物の保管スペースがないことから、資源回収を待てずにごみ集積所に出されてしまうことがあるため、町では資源物保管施設の設置に対して補助金を交付しています。保管施設の設置により、いつでも家庭から資源物を持ち運ぶことができ、資源回収の推進が図られています。



この地区では、子ども会が中心となって集団資源回収を行っています。



今回は、実際に集団資源回収を行っている団体から聞き取りをしたお話を掲載します。



補助金交付額

補助金額：紙・繊維・金属 1kgにつき5円、びん 1本につき2円

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
重量	757t	790t	886t	917t	938t
補助金額	3,652	3,790	4,282	4,449	4,562

(補助金額単位 千円)

問い合わせ：紫波町産業部 環境課生活環境室

電話 672-2111内線1543



「おせっかいサロン」-紫波中央駅前コミュニティプラザの会

「ご近所づきあいの復活」を目指して立ち上げた「なんでも屋 おせっかい」も、今年で3年目を迎えました。

常連客やお得意様も増加し、少しずつですが住民同士による「輪」が広がっており、当初の目的である「人と人を結ぶ接点」としての役割を果たしてきました。しかし、お客さんとの会話の中で気づいたのですが、「もっとおしゃべりをしたい」とか、「いろんな人と触れあいたい」という方が、たくさんいらっしゃるんですね。

そこで「なんでも屋 おせっかい」はこのほど、気軽におしゃべりを楽しんでいただこうと「おせっかいサロン」をはじめました。散歩や買い物でたら、お友達と誘い合わせて、また話し相手が欲しいな、と思うときは是非お越しいただければと思います。お客様同士、お友達同士またスタッフを相手に、コーヒーやお茶を飲みながら、ゆっくりおしゃべりを楽しんで、ご近所づきあいの「輪」を広げてみませんか？

また、困りごとがあれば、気軽にスタッフにご相談ください。

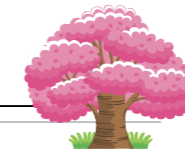
一緒に考えて、問題の解決方法を見つけ出しましょう。

ご近所づきあいの復活は、お互いがお互いを助け合う「共助の心」をはぐくみます。核家族化や高齢者世帯が増加しているこんな時代だからこそ、人との交流から生まれるご近所づきあいが必要なのではないのでしょうか。

日時 月曜日から金曜日 10時～15時(土日、祝日を除く)

問い合わせ 紫波中央駅「なんでも屋 おせっかい」内

電話 080-5556-1780



行雲流水(12) 紫波町と賢治

さくらばな日詰の駅のさくらばな
風に高鳴りこころみだれぬ
この歌は若き日の宮沢賢治のものだが、彼にはこ
ういう歌もある。

志和の城の麦熟すらしその黄色
きみ居るそらのこなたに明し

賢治の初恋の相手が紫波の女性(当時若手病院の看護婦さん)だったというのはつとに有名だが、彼の父方の祖母も母方の祖母も、ともに紫波のひとりだつたというのは余り知られていない。大正期、そして昭和初期頃までは現在よりもずっと花巻の町と日詰の町は深い絆があつたようだ。だが賢治の様々な童話や作品を読んでいる人たちでも、賢治がこれだけ紫波と深い関わりがあつたと知る人は少ないのではないか。日詰の駅や城山に、これらの歌碑でも建つていたら、と考えると、だが現在建設計画中のコミュニティ施設が完成したら、きっと紫波の人たち(特に子どもたち)にもそんな情報を広く伝えられる日が来ると胸がふくらむ。いつも言うことだが、この町は歴史や文化の上での宝物がこここに埋蔵され過ぎていて、埋蔵といえれば何も埋蔵金だけに価値があるのではない。この町はこんな素晴らしい町、と情報発信する時、お米やりんごだけでなく、歴史文化もともにアピールしてこそ、と思うのだが、どうだろうか。(三)



わが心の郡山駅

なつかしき思い出 新しき出会い

紫波みらい研究所では、宿場町として栄えた日詰町の面影を求め、平成16年度に、郡山駅周辺に住んでおられるお年寄りの皆さんから、昔の町のたたくまいや暮らしの様子などについてお話を伺うとともに、写真などの資料を提供いただきました。

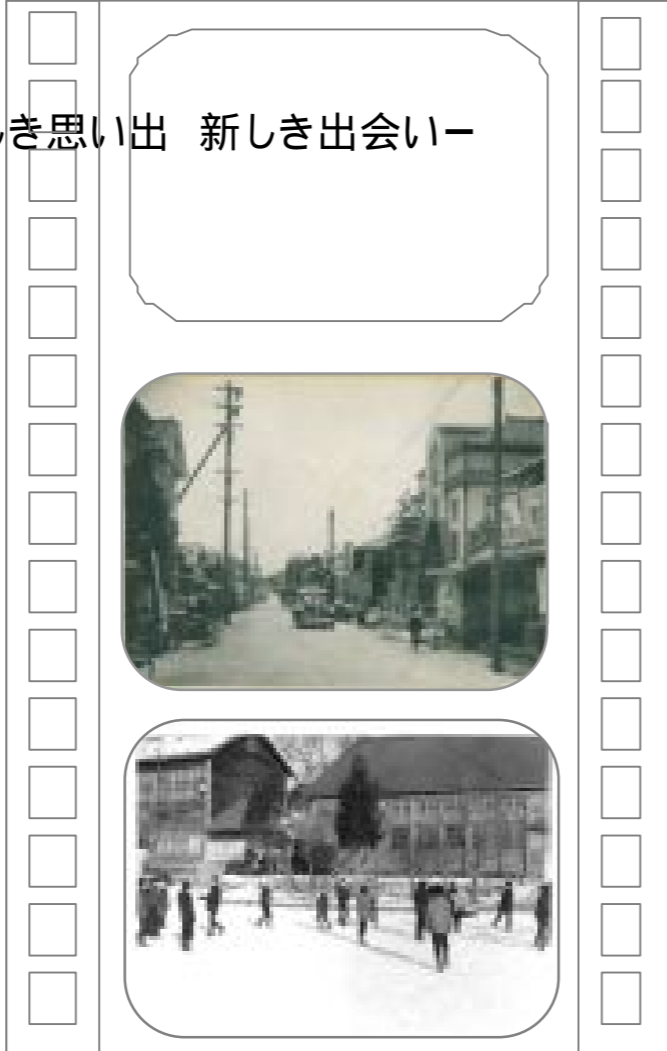
集めたデータはごく一部ですが、子どもたちの世代、さらには孫たちの世代へと語り継いでいく資料として、今後も活用していきたいと考えています。

昨年の11月に日詰11区で久しぶりに発表会を開催したところ、皆さんからなつかしいという声をたくさんいただきました。また、新たな情報もいただくことができました。ありがとうございます。

皆さんの地区でも昔なつかしい写真などを見て、昔語りをしてみませんか？老人クラブやいこいの家などの集まりにぜひ呼んでください。

詳細は、みらい研究所までお問い合わせください。

電話 671-2244 佐藤



イベント情報

「いのちの山河」上映会

旧沢内村長や村人たちの、乳幼児と老人の命を守る活動を感動的に映画化した作品です。

- *日時 4月11日(日) 10時と14時の2回
- *場所 サン・ビレッジ紫波
- *料金 前売り 大人1,000円 (当日1,500円) 子供 500円 (当日800円)
- *問合せ 菅野 電話 676-3045

紫波ふるさとお話し会

心温まる昔の話や童話

- 1 俵編みの実演とお話 菊池 信三郎さん
- 2 朗読 童話集「一杯のご飯」から「クモの巣学校」 畠山 貞子さん
- *日時 4月18日(日) 13時30分～
- *場所 権三ほーる(習町)
- *参加費 300円
- *問合せ どっこ舎 電話 676-2669

うたごえ トンテンカン

4月定例会

- 心に太陽を！くちびるに歌を！どなたでも大歓迎 みんなで歌えばこころ晴々！
- *日時 4月25日(日) 14時から16時
- *場所 権三ほーる(習町)
- *参加費 300円 お茶・おやつあり
- *問合せ 権三ほーる 電話 676-5796

【編集後記】

めぐりっと紫波も平成20年5月発行から2年を迎えることができました。これもひとえに町民の皆さまのおかげです。深く感謝申し上げます。また、紙面の編集協力をいただいている「トークセッション」の皆さま、折りと梱包をお願いしている「さくら製作所」の皆さまもありがとうございました。

来年度の紙面は、これから編集委員みんなで考えていきたいと思っております。記事掲載のお願いや紙面についてのご意見、ご感想をお待ちしています。(事務局)

- ひとと時代をつなぐ -

めぐりっと紫波

3月号 [Vol.12] 平成22年3月24日
発行者 NPO法人紫波みらい研究所
TEL 019-671-2244 FAX 019-671-2243
E-mail miraiken@shiwa-mirai.com



紫波のまち 紫波のひと

赤石地区ひづめ館懇話会

会長 高橋 敬明 さん

2月17日(水)夜7時、赤石公民館では「赤石地区ひづめ館懇話会」の月例会が行われていました。この日は、高橋敬明会長の挨拶の後、事務局から先日の赤石公民館まつりの中で行われた羽柴直人氏(岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター文化専門員)による講演会「樋爪氏と平泉の関係」の様子やアンケート結果の報告が行われ、続いて2人の会員からの発表が行われました。この日の参加者は17人。皆さん熱心に発表者のお話を聞き、質問をしていました。

この「赤石地区ひづめ館懇話会」を立ち上げた会長の高橋敬明さんは、県教委職員や県のソフトボール協会会長を退いて、地元に関心を持つ余裕が出来ると、平成20年春から始まった赤石地区創造会議に参加し、赤石と樋爪氏や平泉との関係について、もっと調べたいと考えるようになったと言います。また、在職中、埋蔵文化財センターの調査員さんとお話をする機会が多くあり、埋もれた歴史に魅力を感じていたそうです。

では、「なぜ『ひづめ館』なのか？」との問いには「歴史遺産を掘り起こすことは、地域興しであり、人興し。まずは興味を持つこと。よそから来た人に地元のことを説明できるようになりたい。」という答えが返ってきました。

この会を立ち上げて良かったと思えることは、「自分が考えている以上に、みなさんが地元に関心を持っていることが分かったこと。調べたことを月例会で発表し、勉強しあう楽しみ」とのことです。「将来樋爪館が平泉と肩を並べるような場所だということが解明されれば嬉しいし、そうなったらおそらく、紫波町にたくさん人が来るようになるぞ...」とにんまりされました。

「赤石地区ひづめ館懇話会」は毎月第3水曜日の夜7時から、赤石公民館で月例会が行われる他に、年3回程度の講演会や遺跡巡りなども計画されています。(文責 櫻井)

(現在会員数34名 年会費1,000円)

